

センターだより

平成27年10月20日発行

発行責任者 推進センター長

にしおか会館4-5-8-21

電話・fax 854-0537

ななかまどの実も一段と色付き、本格的な秋が訪れてきました。
センターだより第2号は、『ふれ愛交流会』開催結果の特集号としてお届けします。

☆ふれ愛交流会～つきたての餅に舌鼓～

毎年恒例の『ふれ愛交流会』は、去る9月27日(日)10:30~13:30西岡福祉地区センターで開催されました。

今年は【餅つき大会】をメインにした初めての催しでした。

参加者は、高齢者(70歳以上の一人暮らしの方)129名、来賓・関係機関・町内会長が38名、そして西岡音頭普及会14名、お手伝いの推進員が77名など総勢270名と沢山の方が集まりました。

○先ず、平山センター長の開会あいさつで始まり、司会進行は石川さん(福まち事業部副部長)の担当です。

今回は、来賓・関係者の方も町内会長とともに各テーブルに分散し着席してもらい、皆と身近に話をさせていただきました。

次に健康体操(サポート役介護予防の本間さん)で身体をほぐしている最中に、早くも会場の後ろで餅つきが始まりました。

この間に司会はあっという間の早変わり、オヨネーズ(懐かしい?)の衣装で再登場、又、事務局のメンバーも思い思いの衣装で盛り上げをと、この思いは皆さんに届いたでしょうか

○【餅つき】は、札大生協食堂の全面的な協力で、さらに関係機関や推進員の強力なサポート体制を組み準備も万全、札大では何度も手掛けており、“大丈夫、まかせて!”と言いつつも、今回の様な大勢の餅つきは初めてとの事、時間通りつきあがるか、あんこ餅・雑煮椀がお昼の弁当に間に合うか?これが最大の難関!

各テーブルでは、それを感じてか、不安げな様子で餅つきを見守る面々も、いつもとは違い、推進員が一転、見守られる立場となりました。

○ところが、そんな心配は全く無用でした。

昔とった杵柄と、自信満々に杵を振り上げ、合いの手を買って出た昔の若い女性群?との息もピッタリ、これに応援隊の関係機関や町内会長、さらに会場からも飛び入り、中でも88歳米寿の女性が、自ら杵をとり大喜び、賑やかな中にも次々と見事に餅がつきあがりました。



何とついたお餅は、全部で11臼でした！

推進員のサポート隊もフル稼働し、前半はあん包み、後半の雑煮碗にはたっぷりと具を盛り、一連の餅つきは思いのほかスムーズに運びました。



○お昼は、待ちに待った豪華弁当：五目ごはんとおかずの2段重ねでこれに手作りの雑煮餅とあんこ餅が同時に配膳されて、何とか最大の難関を突破し、プログラム通り、皆で一斉に“いただきます”と唱和し、ホット一息です。



“美味しいね！ まいう！”との声も上がり、食事の時間を楽しく過ごしました。

司会の石川さんは、餅つきの合い間に各テーブルを回りインタビュー、参加者最高齢94歳(女性)の方の元気な声もマイクを通じ届きました。



○又、地域包括支援センターや豊平区社協の方はそれぞれ仮装し、餅つきをはじめ、交流会を大いに盛り上げていただきました。



○賑やかな、大騒ぎの【餅つき大会】、楽しく嬉しいお昼の時間もアツという間に過ぎて、会の締めくくりは恒例の西岡音頭と北海盆踊りを西岡音頭普及会の方々のサポートにより、皆で会場一杯に大きな輪になって踊り、無事全部が終了



皆は溢れる笑顔で、“お疲れさま 元気でね！”と声を掛け合いながら散会しました。

○この『ふれ愛交流会』は、ここ西岡地区の大きな催しとして毎年継続開催していますが、関係機関や町内会長など地域の方々の協力、そしてお手伝いの推進員の人達の献身的なサポートのお陰と心から厚くお礼申しあげます。

特に今回は、初めての【餅つき】を札大生協食堂のスタッフの方に全面的に支援協力していただきました。ありがとうございました。



編集後記

ふれ愛交流会が何事もなく無事に終了し、ホットしています。

秋に入っても異常な天候が続いています。これから秋も徐々に深まり、日一日と寒さに向かいます、健康管理には十分気を付けてお暮らしてください。

広報担当 山田 耕三